

●認定看護師のご紹介●



福岡大学病院
脳卒中リハビリテーション看護
認定看護師

やま だ ゆり こ たけした えみ
山田 由李子 竹下 恵美

「〇〇さんが脳卒中で半身不随になったらしいよ」このような会話を耳にしたことがあると思います。脳卒中は「くも膜下出血」「脳出血」「脳梗塞」の3つの病気の総称で、天災のように職場や家など場所を選ばず急に起こります。我が国では、1分30秒に1人の割合で脳卒中を発症しており、死因第4位、寝たきりの原因第1位です。脳は意識や運動指令の中核ですので、寝たきりにならなくとも“手足の麻痺”“言葉が出にくい”などの後遺症を抱える患者さんは少なくありません。私達は、脳卒中患者さんが障害を持ちながらもその人らしく生活できるように支援します。

●急性期の管理

発症してから4.5時間以内にしか行えない脳梗塞の治療があることをご存知でしょうか？脳は「time is brain」と言われ、時間とともにダメージが広がるため、いかに早く治療を行うかがカギとなります。1分1秒でも早く安全に治療を行えるように、医師・看護師・放射線技師などが協働しています。患者さんを回復に向けて援助するとともに、突然の出来事に動揺・混乱するご家族のこころにも寄り添い、支援しています。

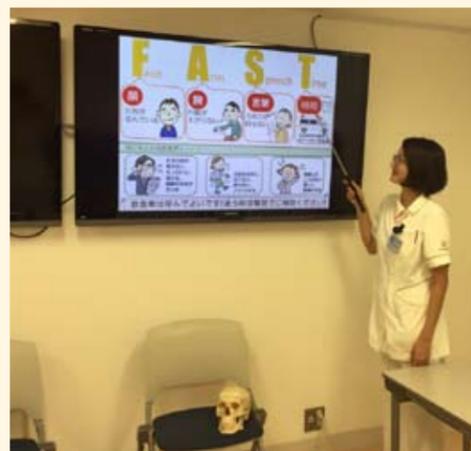
●在宅・社会復帰に向けた支援

回復のためには、リハビリも重要です。安静は体へ悪影響を及ぼすため、関節訓練や寝返りといったベッド上で行えるリハビリを発症当日から行います。また当院では、後遺症で動かなくなった手足のリハビリとして、ロボットスーツHAL®(筋肉を動かそうという意思で生じる電気刺激を活用したロボット)を導入しており、安全に行えるように支援しています。さらに、後遺症のために今までと同様の生活を送ることが難しくなった場合に、どのように生活環境を整えるかを一緒に考えます。



医師・リハビリ技師と協働したHAL®リハビリ風景

●脳卒中発症予防・再発予防の啓発



脳卒中教室風景

脳卒中は再発しやすく、生活習慣との関わりも強い病気です。実は10年で約50%以上の方が再発しており、再発すると重症化することが多いです。また、脳卒中は喫煙や乱れた食生活、過剰飲酒などが原因で発症します。脳卒中によって寝たきりにならないよう、発症・再発予防のサポートを行います。具体的には、患者さんやご家族へ脳卒中という病気と予防方法を知ってもらおう機会として、医師と一緒に「脳卒中教室」を開催しています。

私たちは、救命救急センターや脳神経センターに所属しておりますが、いつでも対応できるように連携しています。「脳卒中のことを詳しく知りたい」「後遺症で悩んでいる」「再発予防をどうしたらいいかわからない」など、脳卒中に関してお困りの事があれば、いつでもご相談ください。

●福岡大学博多駅クリニックのご紹介●



福岡大学博多駅クリニック
診療所長・教授
循環器専門医
総合内科専門医

に い たかのぶ
仁位 隆信

博多駅「博多口」に直結し新しく建ったKITTE博多ビル8階に、福岡大学としては3番目の医療施設「福岡大学博多駅クリニック」が、4月21日にオープンしました。このクリニックは大学の医療部門の一つとして、循環器内科、形成外科、脳神経外科の3名の医師が常勤し、更に、福岡大学病院及び福岡大学筑紫病院(以下両病院)の応援・協力を得て、多彩な診療(保険診療・自由診療)を展開しています。

当クリニックは、女性専用ユニットと一般診療・専門外来のユニットに分かれています。女性専用ユニットでは、医師、看護師、検査技師等のスタッフはすべて女性で運営されています。ここでは予約制を基本として、形成外科、美容外科、美容皮膚科、乳腺外科、産婦人科、泌尿器科、肛門科、精神科の診療を行っています。ビルを訪れる買い物客の約8割は女性であるため、女性医療はクリニックの重要な位置づけとなっています。

一般診療ユニットにある一般内科は、福大病院総合診療部の医師の応援を得て、予約なしでいつでも受診できます。近隣の商業施設を訪れた方や勤務されている方が、体調を崩した時などに利用されています。私の専門は循環器内科ですが、循環器疾患の二次検診や高血圧はもとより、脂質異常症や糖尿病、睡眠時無呼吸症候群などの生活習慣病の診療も行っています。

専門外来では、5月に形成外科の医師が中心となって、足全般の悩みに対する診療としてフットケア外来を開設しました。一般外来部門の形成外科では、皮膚腫瘍や眼瞼下垂症などに対する外来手術も行っています。皮膚科、整形外科、泌尿器科は週1~2回ですが、両病院から専門の医師を招き好評を博しています。8月には海外への渡航者に対してワクチンを接種する渡航外来がオープンしました。博多駅は九州の玄関口で交通の要所でもあることで、ビジネスマンや学生さんの利用が見込まれます。小児科、消化器内科、呼吸器内科、もの忘れなどの専門外来や、腫瘍血液内科、心臓血管外科のセカンドオピニオン外来もありますのでぜひご利用ください。

当クリニックは、外来のみで制約はありますが、両病院の応援を受け、開院当初からのロボットスーツHAL®を活用したリハビリや、市民を対象にした健康講座「知って得する健康セミナー」などを行っています。また、博多駅構内のショッピングモール マイングでの健康相談会(健康チェック)開催など、地域に根付いた企画にも取り組んでいます。今後は、大学が進める国際医療戦略の一環として外国人を対象にした検診や、本学スポーツ科学部の協力を得て運動療法・処方等を行う予定です。

大学が商業ビル内にクリニックを開設するのは、全国でも初めての試みだと思います。周囲の人通りも多く、マスコミも含め関心や注目を集めています。大学の施設として、いかに特色あるクリニックを作っていくか、試行錯誤の日々です。両病院の協力を得ながら、「身近で、安心、信頼できる」クリニックを目指し、当クリニックのスタッフとともに、尽力して行く所存です。今後とも宜しく願いいたします。

福岡大学
博多駅クリニック



スタッフ集合写真



フットケア外来の様子



健康セミナー



●福岡大学博多駅クリニックのご紹介●



福岡大学博多駅クリニック
形成外科専門医
抗加齢医学専門医

医師 **西田 美穂**

●福岡大学博多駅クリニック 女性医療ユニット:女性のための専門医療

女性の身体は、女性ホルモンの働きが繊細で、しかも思春期、妊娠や出産、更年期、老年期にわたり年齢とともに劇的に変化し、女性特有のいろいろな症状や悩みがでてきます。女性医療ユニットでは、「女性による女性のための専門医療」を理念に、女性の様々な悩みに寄り添った総合的な医療ができるよう、乳腺外科、産婦人科、美容医療(美容外科・美容皮膚科)、形成外科、皮膚科、泌尿器科、肛門科、精神科といった診療科が連携して診療にあたっています。

◎皮膚科・形成外科(保険診療)・美容医療(自由診療)

皮膚科・形成外科の一般保険診療を行っています。また、しみ、しわ、たるみといった抗加齢美容医療分野の自由診療にも力をいれており、専門医が安全性の高い美容医療を提供することを旨としています。しみ、いぼ、ほくろに対してはレーザー治療や光(IPL)治療、外用薬治療をお勧めしています。また、しわとたるみには高周波(RF)治療やヒアルロン酸注入、ボトックス注射が可能です。まずはご相談だけでもお気軽にお越しください。

◎産婦人科(保険診療・自由診療)

保険診療として、月経不順、月経痛、不妊、不正出血、子宮や卵巣の病気、更年期症状などの診断や治療を行っています。これに加え、自由診療として避妊リング処置、婦人科がん検診、ピルの処方なども行っております。気軽に女性特有のお悩みをご相談ください。

◎泌尿器科

過活動膀胱、尿失禁、骨盤臓器脱、尿路感染症、泌尿器がん検診などの診療を行っています。必要に応じて腹部エコー、尿検査、尿流量測定、膀胱尿道鏡検査、膀胱鏡検査、X線検査、CT検査など各種検査も可能です。

◎肛門科

女性医師が女性のおしりの悩み全般の診察・治療を行います。特に、いぼ痔(痔核)、切れ痔(裂肛)、肛門のかゆみ(肛門掻痒症)や肛門脱の診療を行います。上記疾患以外でも肛門近くの異常(痛み、腫れ、脱出など)や排便に関する悩みなどありましたらなんでもご相談ください。

◎女性のこころ外来・精神科(保険診療)

女性の一生には、ストレスがつきものです。失恋、子育ての悩み、嫁姑問題、夫への不満、職場やママ友のストレス等。月経や更年期の影響もあるようです。眠れない、気分が沈む、胸が苦しい等不調のサインが見られたらまずはお気軽に受診してください。

◎乳腺外科(保険診療・自由診療)

乳房にしこり、引きつれ、痛み、違和感がある、乳頭からの分泌液、乳頭のただれ、腋の下のしこりなどの自覚症状のある方や、乳がん検診を希望される方、また検診で精密検査が必要と言われた方などの診療を行っています。必要に応じてマンモグラフィ検査、超音波検査が施行可能です。

女性医療ユニット



女性がリラックスできるよう、一般の診療スペースとはドアで仕切られた女性専用の診察室・受付・待合室・パウダールームを設け、診療や検査はすべて女性の医師、看護師、技師が担当しております。

KITTE博多ビル



大学病院関連施設に女性医療を専門とする機関があるということは、全国的に見ても大変珍しいことで、また、博多駅直結の好立地であることから全国的にも注目を集めています。ぜひ皆様のお悩みをご相談ください。

福岡大学博多駅クリニック
URL: <https://www.fumc.fukuoka-u.ac.jp>
TEL: 092-435-1011 FAX: 092-435-1022



福岡大学博多駅クリニック
脳神経外科専門医
脳卒中専門医
脳神経超音波認定検査士

医師 **千住 緒美**

●福岡大学博多駅クリニックのロボットスーツHAL®を用いたリハビリテーション

①ロボットスーツHAL®

ロボットスーツHAL®は、筑波大学の山海嘉之教授により開発された、装着型のロボットです。下肢や上肢に装着し、人が動こうと思った時に皮膚表面より発生する生体電位信号を使って装着者の意図を読み取り動きをアシストします。2010年より流通開始となり、福岡大学病院では2011年にいち早くHAL®を取り入れ、これまで170例以上の脳卒中や脳神経外科疾患の患者さんに使用し、良好な結果を得てきました。脳・脊髄疾患では必ずリハビリテーション(以下リハビリ)を行います。その目的は運動の再学習です。

HAL®の特徴は、他人に動かされるのではなく、自らが行った運動をアシスト・修正してくれることです。装着者は、ロボットの力を借りて正しい歩行を体感し、自分がしようとする動きを脳から末梢へ伝え、そして実際に動いた感覚を末梢から脳へ伝えるというループを繰り返します(インタラクティブ・バイオ・フィードバック仮説)。HAL®を使用することで、アシストされたより良い動きを脳に伝えることができ、運動学習に非常に有用と考えられています。

②HAL®の保険適応

日本に先立ち、2013年にEUで医療機器として承認されました。その後、ようやく2015年に日本でも医療機器として認可され、2016年4月よりHAL®の保険治療が開始されました。対象疾患は、8つの神経難病(脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、シャルコー・マリー・トゥース病、遠位型ミオパチー、封入体筋炎、先天性ミオパチー、筋ジストロフィー)です。HAL®での歩行訓練による進行抑制が目的であり、神経・筋難病の治療の一つとして重要なものになりました。治験がすすめられている疾患もあり、この先、保険適応の疾患は増えていくものと思われます。

③福岡大学博多駅クリニックでのHAL®リハビリ

保険適応疾患に対するHAL®のリハビリは、福岡大学病院と福岡大学博多駅クリニックで今秋から開始されます。大学で経験を積んだHAL®専属の医師や理学療法士にてリハビリを行っています。また、開業以来自由診療でのHAL®訓練も行っており、保険適応とならない脳卒中後や脊髄障害、歩行にふらつきのある方も自由診療にて訓練が可能な環境です。現在来院している患者さんは、訓練後に施設内でランチや買い物を楽しんで帰っておられます。障害はあっても、明るい環境でフィットネスのようにリハビリをできる場所にしたいと思っています。



HAL®の動作原理



博多駅クリニックの運動療法室